公害防止措置の概要（記入例）

（1．騒音 2．振動 3．水質 4．大気 5．化学物質 6．土壌 7．その他）

1. 騒音防止対策

外壁をALC100 mmとし、窓ガラスは厚さ 6.8 mmのアミ入りにします。

シャッター部については防音シャッターを使用します。

また、工場にはエアコンを設置し、開口部を閉めて作業をします。敷地境界にはブロック塀(H=1,700)を設置します。

2. 振動防止対策

作業場の床は建物と縁を切り、コンクリートの厚さを 150 mmとします。

振動を発生するコンプレッサーには防振ゴムを設置しますので、特に問題となる振動はないと考えます。

3. 水質汚濁防止対策

水を使用する作業はありません。また、生活系排水については公共下水道へ放流します。

雨水は浸透ますにより敷地内浸透とします。

(汚水は油水分離槽を経由し、公共下水道へ放流します。)

4. 大気汚染防止対策

切削油等の臭気がありますが、使用量が少ないため問題となる臭気は発生しないと考えます。

有害ガスの使用については、除害装置を設置します。

5. 化学物質

化学物質の取り扱いについては、東京都化学物質適正管理指針に基づいて、化学物質の使用量、製造量、製品としての出荷量並びに PRTR 法第5条第1項に規定する排出量及び移動量を把握し、化学物質の適正管理に努めます。

6. 土壌汚染防止対策

有害物質の取り扱いには注意し、保管は薬品庫で厳重に管理します。

有害物質を取り扱う場所の床はコンクリート造りとし、表面は耐性のある材質で被覆されています。

7. その他

特記事項

公害防止については、細心の注意を払いますが、万一公害問題が生じた場合は、その都度、誠意を持って速やかに対応します。